

●ポートフォリオの見直し例

	現状	目標
期待リターン	7.1%	4.3%
標準偏差	25.3%	11.7%
最大損失率	-43.4%	-19.2%
投資効率	0.28	0.37

	現状投資額	目標投資額	24ヵ月分割
国内株式	—	200	8.3
先進国株式	—	250	10.4
先進国債券ヘッジ付	—	400	16.7
先進国REIT	1,000	150	—

失を抱えているケースだ。現時点のトータル・リターンがプラスであれば問題ないのだが、損失を抱えている場合は、損切りしたうえに、購入手数料を支払って別の商品を購入することになるため、提案を受け入れてもらえないこともある。あるいは、追加投資をして平均購入単価を下げ、相場が反転したときに値が戻りやすくなるという提案も

ポータルフォリオ内の商品をセットで積み立ててもらおう

ポータルフォリオの見直しに納得していただけた場合で、保有商品を売却して資金を捻出せず、余裕資金で対応できるケース

ポータルフォリオの見直しに納得していただけた場合で、保有商品を売却して資金を捻出せず、余裕資金で対応できるケース

ポータルフォリオの見直しに納得していただけた場合で、保有商品を売却して資金を捻出せず、余裕資金で対応できるケース

いま保有している商品を踏まえて 顧客に適したポートフォリオを どう提案したらよいか



Q
24

A 3カテゴリーに分けて 保有商品なるべく活かす

すでに資産運用を始めている顧客に対する理想的な運用提案の流れは、38ページに述べたとおりだ。

何よりも大切なことは、これまで運用を行ってきた中で感じていることを、じっくり聞き出すことである。自分のイメージどおりの運用だったということであればよいのだが、往々にして顧客は、何かしらの不安・不満を感じているものだ。「こんなに損するとは思っていなかった」「分配金を受け取ってはいないが、元本を取り崩してしまっている」——。担当者は顧客のそうした思いを受け止めて、これから改めてどうやってお金を増やしていくか、リスク・リターンの水準なども含めて確認していくことが必要だ。

特に、他の金融機関で投資信託を購入したような顧客であれば、自分の不満や不安を親身になって聞いてくれた担当者に信頼を寄せ、以降の見直し提案にも結び付けやすい。

顧客の傾向としては、リスクを取りすぎている方がほとんどである。そのため、まずは顧客のリスク許容度をきちんと確認し、そのリスク許容度に適したポートフォリオになるよう、保有資産の見直しを提案すべきだろう。リスク許容度に応じたポートフォリオの例は、22ページに記してあるので参考にしてほしい。

なお、顧客によっては、「昔ブラジルの債券ファンドに投資して損をしたから、新興国には投資したくない」という人もいるだろう。その場合は、代替案を提案することになる。

ポートフォリオを組む際、筆者は大きく3つのカテゴリーに分けて考えている。具体的には、①株式・リート、②高金利債券（新興国・ハイイールド）、③先進国債券・オルタナティブだ。

本来であれば、顧客のリスク許容度に合わせて、それぞれの資産を組み合わせて保有するほうがリスク・リターンの効率が良いのだが、仮に顧客が新興国が嫌だという場合は、その分同一カテゴリーのハイイールドの割合を増やす方向で考える。こうした点は、臨機応変に対応したい。



心理的に難しい場合は 値が戻ったときに対応する

売却により捻出した資金で、ポートフォリオを構成する商品の購入を提案するわけだが、売却注文に合わせてその都度買付注文を行うのは、顧客にも販売員にも手間がかかる。

考えられるが、「もうやりたくない」としり込みしてしまうケースも多い。

どうしても心理的に提案が受け入れてもらえない場合は、「値が戻ったところで見直しを検討しましょう」と伝えておき、後日改めてアプローチするのもひとつの方法だ。その際、保有している商品が毎月分配型で分配金を受け取っている場合は、分配金を再投資するようにして、少しでも早く値が戻るように対処しておきたい。

であれば、ポートフォリオを構成するために不足する資産を購入することになる。

その際、為替リスクのない債券ファンドなどの低リスク商品であれば、1回で購入してもらってもよいだろう。反対に、値動きが大きいハイリスクな商品は、複数回に分けて購入するよう提案したい。

売却により捻出した資金で、ポートフォリオを構成する商品の購入を提案するわけだが、売却注文に合わせてその都度買付注文を行うのは、顧客にも販売員にも手間がかかる。

そこで、購入については最初の段階で、積立投資を勧めるのがベストである。積立の方法は、ポートフォリオ内の構成比率に合わせてパッケージで提案するとよい。

3つのカテゴリーを踏まえて 臨機応変に対応する

なお、ポートフォリオを見直す際は、すでに保有しているファンドをなるべく活かしてあげることがポイントである。

具体例で考えてみよう。現状、リートを1000万円保有し、かつ損失を抱えているケースで、2年後にリート15%、国内株式20%、先進国株式25%、外国債券40%というポートフォリオを目標にしているとしよう。その場